

ぼくのふるさと西門川

五十鈴小学校 五年 黒木 悠孝

ぼくは、今、西門川に住んでいます。西門川地区には、習字の先生がやっている商店や郵便局はありますが、町中にあるようなコンビニエンスストアや駅などがありません。小中学校も五年前に閉校になってしまいました。だから、ぼくは、生活をしていく中で不便さを感じたり、都会の生活にあこがれたりすることがありました。

今回、この作文を書くにあたって、西門川地区にないものや不便さを見つけるのではなく、他の地区にはない西門川地区のよさや、西門川地区だからこそ大切に守られていることを自分なりに発見しようと思いました。

一つ目は、優しい人達がいっぱいいるところです。例えば、朝、ぼくがバス乗り場に行くと、地域の人達が、必ず「おはよう。」とあいさつをしてくれます。だから、ぼくも「おはようございます。」とあいさつを返します。今では、あいさつに加えて、「今日も元気だね。」「大きくなったね。」なども言うてくれることがあります。とてもうれしい気持ちで朝をおかえることができます。

また、イノシシや鹿の肉、そして川ガニなどをとった人が、おすそ分けに来てくださることがあります。さらに、十五夜の時は、子ども達が近所を一けん、一けん歩いてまわる行事があります。近所の家の人は、子ども達のためにおかしを準備して待っていてくれます。コロナの時は、わざわざおかしを持って、ぼ

くの家までわたしに来てくださいました。西門川の地区の人達は、本当に心の優しい人達ばかりです。

二つ目は、自然が豊かなところです。山や川がすぐ近くにあり、生き物もたくさんすんでいます。夜、お風呂や部屋の窓にヤモリがくっついていたりすることがありました。ぼくは、ちよつとびっくりしたけれど、大好きなヤモリなので、毎日そつと観察することができました。また、夏休みには、いつでも川で遊ぶことができました。楽しみのひとつは、おじいちゃん、お父さんといっしょに行くテナガエビとりです。西門川に生息しているテナガエビは、敵が現れると後方に逃げる習性があります。その習性を逆手にとって、テナガエビの前方であみをゆさぶり、後方に構えていたもう一つのあみでテナガエビをとります。

三つ目は、食べ物がいっぱいいるところです。春は、タケノコ。家の近くの裏山でタケノコほりを楽しむことができます。イノシシも食べに来るので、どちらが先にとるか競争します。夏は、先ほどしかいしたテナガエビ。秋は、カニや鮎。冬はイノシシやシカ肉。ぼくは、肉が大好きなので、イノシシやシカ肉は、最高のごちそうです。

春夏秋冬、自然の恵みをいただく楽しさが西門川地区にはあります。最後に、皆さんにおすすめしたいのが、ひいおばあちゃんとおばあちゃんが作る季節のとれたて野菜です。春はキャベツ、夏はたまねぎ、秋はじゃがいもそして今の寒い時季には、みずみずしい大根が絶品です。たくあんにしたり、こごえるような寒い季節にぴったりなおでんにしたりします。

今回、西門川地区のよさを大きく三つに分けてしようか
してきましたが、他にもまだまだ西門川のよさはあると思いま
す。そのよさをこれからも自分の目で見つけ、書きとめて、た
くさんの人に発信していこうと思います。

最後に、ぼくは、将来県外に出て仕事をするかもしれませんが、
大好きなふるさと西門川地区のことを忘れずに思い続け
ていきたいと思っています。

この西門川地区が、今のように自然豊かで人々が優しく、温
かい地区であり続けるように、協力していきたいと思っています。
